

差別・偏見の低減のためにできることは

所属: 文学・心理・語学系ゼミ

1. 要旨(Abstract)

本研究では世界各地で発生している差別・偏見の原因は人間の心理にあると考え、**差別や偏見を生み出す心理と一人ひとりが付き合っていくにはどうすればよいか**というリサーチクエスションのもとで心理学の観点から研究を進めていく。しかし、原因が心理にあるため差別を完全になくすことは難しい。また、人の心理がどのように働き、差別や偏見を引き起こしているのか、またそれらを低減することは可能なのか、そのためにはどうすればよいかを明らかにすることを目標としている。この目標を達成するためにより多くの情報を入手しやすい文献調査を用いて研究を進める。

差別・偏見、ステレオタイプの定義から、**差別を低減するためには、原因であるステレオタイプの特徴を踏まえ、偏見をなくすことが必要だ**。ということがわかった。そのためステレオタイプの主に5つある特徴からそのうちの2つに着目した。そしてこれらのことから以下のように結論付けた。**ステレオタイプが社会に定着している・歪められた一般情報・分類である**という特徴から、自分でその情報が正しいものなのか考えるということが必要。また、**偏見は生まれたときから持っているものではなく、生きてきた環境・教育によって形成されていくものであり一度ステレオタイプ的な知識を持つとそれを変化させることは難しい**ということから、幼い頃から差別・偏見をなくす人権教育をしていくべきである。例えば、絵本・紙芝居を使い差別について学ばせたり、道徳の授業時間を増やしたりすることをすべきである。私達一人ひとりにできることは小さな事かもしれないが、何もしないより考えを巡らせ、低減していくことを目標にしていくべきである。

2. 序論(Introduction)

2.1 研究背景

現在日本のみならず世界各地で発生している差別・偏見。その対象者は女性や黒人、障害をもつ人など様々だ。子供が対象の差別についてunicefは次のように述べている。「**子どもたちが差別の対象になると、必要不可欠なケアやサービスの利用が拒否されるほか、学校からも排除され、必要な医療処置を受けることもできません。**」このように対象者に不利益が生じることがある。また、国際人権NGOimadrは「**日本にも人種差別があります。その影響を受けているのは、部落、アイヌ、琉球・沖縄の人びと、日本の旧植民地出身者とその子孫、そして外国人・移住労働者です。**」としており、日本の差別は改善されたように思うことができるが完全になくなっていないことがわかる。しかし国際連合では、「**1963年、総会は「あらゆる形態の人種差別撤廃に関する宣言(United Nations Declaration on the Elimination of All Forms of Racial Discrimination)」を採択した。宣言は、すべての人は基本的には平等であるとのべ、人種、皮膚の色もしくは種族的出身に基づく人間間の差別は世界人権宣言に掲げる人権の侵害であり、国家間および人民間の友好的かつ平和的関係に対して障害となることを確認した。**」としており、今から約60年も前から差別を撤廃するよう求めている。

ではなぜ差別・偏見は起こるのか。何が原因となっているのか。その原因は人間の心理にあると考えている。差別・偏見を心理学の観点から研究を進める。

2.2 研究目的・意義

本研究では**差別や偏見を生み出す心理と一人ひとりが付き合っていくにはどうすればよいか**というリサーチクエスションのもとで研究していく。現時点では差別や偏見のもととなる心理はステレオタイプではないかと考えられている。また差別・偏見の原因は人間の心理によるものだと考えられているので、それを完全になくすことは難しいと言える。『**偏見や差別はなぜ起こる？**』(ちとせプレス)の著者北村英哉は、ス

ステレオタイプとは、「ある集団に属する人々に対して、特定の性格や資質をみんなが持っているように見えたり、信じたりする認知的な傾向」であるとしている。そして私は、そのステレオタイプの特徴がリサーチクエスションの答えになるのではないかという仮説を立てた。

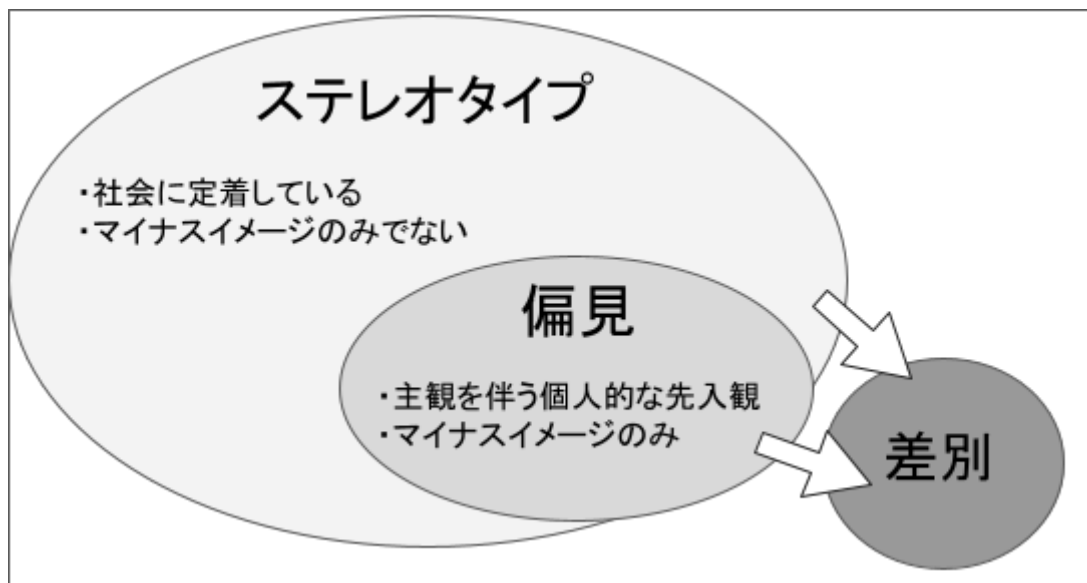
3. 研究方法(Methhods)

本研究では、人の心理がどのように働き、差別や偏見を引き起こしているのか、またそれらを低減することは可能なのか、そのためにはどうすればよいかを明らかにすることを目標としている。

この目標を達成するために文献調査を用いて研究を進める。文献調査を行う理由は、より多くのデータや研究の情報を入手することができるからである。しかし、その一方で意見や研究結果が偏らないように複数の文献を比較して調べる必要がある。目標達成のために差別・偏見のもとであると考えられるステレオタイプの特徴と差別・偏見の定義について調べ、そこからそれらを無くす方法を考える。

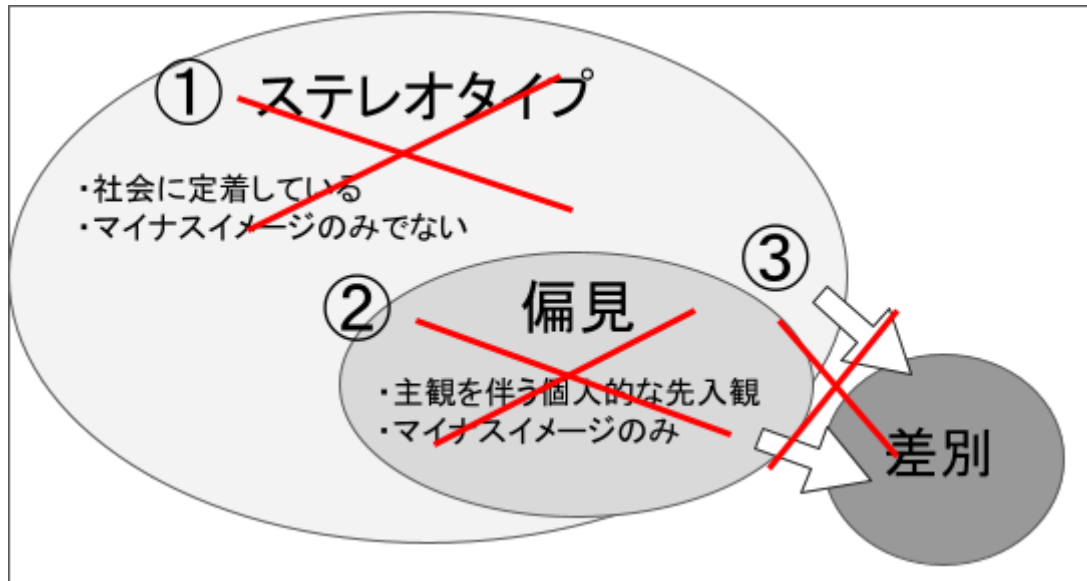
4. 結果・考察(Results & Discussion)

まず、ステレオタイプの特徴は5つある。1つ目は、必要以上に簡略化されていること。2つ目は、嘘の情報を誇張していること。3つ目は、歪められた一般情報・分類であること。4つ目は、対象に対して、好き嫌い・善悪・優劣という強い感情を伴っていること。5つ目は新たな事実・経験を通して、簡単に変化しないことである。ここで、ステレオタイプとはすべてがマイナスなものだけを指しているわけではないということに注意してほしい。例を例を挙げるとすると、都会の人はオシャレである。アメリカ人はハンバーガーが好き。などである。また偏見とは、社会に定着しており、すべてがマイナスなものでないステレオタイプと違い、主観を伴う個人的な先入観を含み、マイナスなイメージのみを指す。差別とはステレオタイプや偏見を理由に表現・行動として外部に現れるものである。情報が錯乱しておりわかりにくいかもしれないので以下の図に表した。



この図より、偏見はステレオタイプのグループに入り、ステレオタイプと偏見が差別の原因になっていると言えることがわかる。

これらのことから、差別を低減するためには、原因であるステレオタイプの特徴を踏まえ、偏見をなくすことが必要だ。ということが言える。その理由を図で表すと、下のような流れになる。



①ステレオタイプが低減する ②それに伴い、偏見も低減する。 ③差別の理由となるステレオタイプ・偏見が低減したことにより、差別も低減する。 という流れになると予想できる。つまり、差別・偏見の低減のためにはまずは**ステレオタイプの低減を目指す**ことが重要であると結論付けた。ステレオタイプの低減を達成するには、はじめに挙げた特徴に着目する必要がある。

まず、**ステレオタイプが社会に定着している・歪められた一般情報・分類である**という特徴から見ていく。社会に定着しているということはそれを知らない人には発生しないと言えるのではないか。またステレオタイプは自分の意志で考えた情報ではないことがわかる。個人の意見であると他の人が介入したり、それを変化させたりすることは難しいが、**社会に定着しているものである**ためそれを私達がなくしていけば良いのではないかと考えた。またその情報に対して私達一人ひとりが疑問を持ち、信じなければステレオタイプは存在しなくなるのではないか。

次に着目すべきなのは、**新たな事実・経験を通して、簡単に変化しない**という特徴だ。私はこの特徴がステレオタイプ・偏見、そこから生まれる差別がなくならない大きな要因の一つであると考えている。この特徴は、**一度ステレオタイプの知識を持つとそれを変化させることは難しい**ということを行っている。だから、差別・偏見をなくすことはできないのである。しかし、その特徴からは、はじめからステレオ的な知識を持たないようにすべきであるということもわかる。さらに**偏見は生まれたときから持っているものではなく、生きてきた環境・教育によって形成されていくものである**ということがわかっている。では、幼い頃から人権教育を積極的に行えばステレオタイプが形成されないのではないかと考えた。例えば、差別を絵本や紙芝居にして教えたり、小中学校で行う道徳の授業の時間数を増やしたり、工夫ができると思う。これから社会を良くするには、未来を担う子どもたちを積極的に育てていくべきだと思う。

5. 結論・展望(Conclusions & Outlook)

これらのことから、ステレオタイプの低減のためには以下の2つのことを実行すべきであると結論付けた。まず1つ目は、ステレオタイプは社会に定着しているものであるため、自分でその情報が正しいものなのか考えるということ。2つ目は、ステレオタイプは生きてきた環境・教育によって形成され、一度そのような知識を持つと変化させることは難しいため、幼い頃から差別・偏見をなくす人権教育をしていくべきであるということ。例えば、絵本・紙芝居を使い差別について学ばせたり、道徳の授業時間を増やしたりすることができる。

研究を進めていくうちに、「偏見の強い人とそうでない人との大きな違いは何か」「日本で今でも続く差別はあるのか、それは何か」などと気になることがいくつか出てきた。また他の社会問題の中で人間の心理によって起きているものやその解決法も知りたい。

また、2001年に策定された持続可能な開発目標SDGsの目標達成に貢献できるのではないかと考えている。その中でも、「目標4 すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の「4.1 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習効果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。」や、「目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」の「5.1 あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。」、「目標10 各国内及び各国間の不平等を是正する」の「10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。」に貢献できると言える。

本研究では以上のような結論となったが、それらをすぐに実行できるとは言えない。そして差別・偏見ははじめに述べたように、私達が人間である限り完全になくなることはない。また今すぐ低減することはできず、さらには低減したかどうか目に見えることではない。しかし、差別・偏見によって苦しんできた人々がいることは紛れもない事実である。私達一人ひとりにできることは小さな事かもしれないが、何もしないより考えを巡らせるべきである。差別・偏見について興味を持ってもらえるだけでも良い。これから差別・偏見が少しでも低減していくことを期待する。

6. 引用文献(References)・参考文献(Bibliography)

・人権啓発用語辞典

・IDEAS FOR GOOD 社会をもっとよくする世界のアイデアマガジン

「ステレオタイプとは・意味」<https://ideasforgood.jp/glossary/stereotype/>

・足立区 ADACHI CITY (2016)『「差別」「偏見」って何?』

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/somu/kurashi/sekatsu-mondai/jinken-sabetsu.html>

・gooddo(2020)「人種差別の原因は？偏見をなくすにはどうしたらいい？」

https://gooddo.jp/magazine/inequality/racial_discrimination/11290/